



保健医療学部通信 第2号

各学科長からのごあいさつ

看護学科

学科長 大日向輝美

平成26年3月20日、看護学科の第18期生47名が母校を巣立ちました。3月25日には卒業生全員が看護師・保健師国家試験に合格したとの嬉しい知らせを受けることができ、教職員皆でこの快挙を喜び合いました。看護師国家試験につきましては11年連続合格率100%を達成し、我が国の看護系大学における100%の連続記録を更新しております。これもひとえに厳しい学習に誠実に取り組んできた学生たちの努力と熱意、また、保護者の皆さまの陰日向の支えあつてのことと思っております。看護学科では平成25年度より、正課の授業以外の看護技術セミナーの実施、附属病院看護職員との交流会の開催など、看護実践力の向上とキャリア発達のための新たな取り組みを積極的に行っています。平成26年4月1日には附属病院と共同で看護キャリア支援センターを開設し、本学の看護学生と附属病院看護職員に対する教育環境の充実をはかるため、教育研究相互支援とキャリア形成支援の2本柱で事業展開を始めたところです。このような取り組みにより、卒業時には実践力の基礎・基本を高いレベルで有する新人看護職として社会にエントリーできる確かな能力を4年間で身につけてもらいたいと考えています。1学年50名の学生に教員30名という少人数教育の強みを活かし、これからも学生との距離感の近い丁寧な教育を心がけていく所存ですので、保護者の皆さまにおかれましては引き続きご支援をお願いいたします。

理学療法学科

学科長 古名丈人

毎年繰り返されることではありますが、4月に新一年生90余名が本学の門をくぐり、学内にフレッシュな風を吹かせています。理学療法学科におきましては、解剖学が専門の松村博文教授、整形外科学が専門の渡邊耕太教授を新たにスタッフとして迎え、当学科は14名の陣容となりました。すでにお知らせしております、本年9月竣工予定の「リハビリテーション実習棟」などの教育施設の充実とあわせ、ソフト・ハード両面の教育環境がさらに充実することになります。しかしながら、どんなに施設やスタッフが充実していても、学生本人の自主的・能動的な学習態度がなければそれらはほとんど意味を成しません。それほど学生本人の学習態度の醸成は大学における学の修得には大切です。またこれらに先んじて、仕事上、対人コミュニケーションが必須な医療職にとっては、豊かな人間形成が重要な資質になります。大学では、同級生をはじめとする他の学生、そして様々な人達と関係性を作り、それを太くしつつ、多様な経験を経て豊かな自己を培ってゆきます。

当然のことながら、以上二つの要件は大学のみでは形作ることは困難です。もっとも人として関係性が近いご両親として、社会の先輩として、そして人生の先達として、温かくというのはもちろんのこと、時には厳しく学生の修学全般をご支援いただければ幸いに存じます。

作業療法学科

学科長 松山清治

平成25年新入生を作業療法学科に迎え1年を無事に経過することが出来ました。教員一同大変うれしく思っております。当学科では作業療法専門職として将来の北海道の保健医療を担うことが出来る人材、指導者あるいは研究者として将来の作業療法の発展に寄与できる人材を育成するために、教員一丸となって新たな取り組みを進めてきております。この一環として平成23年度にはゼミナール制度を立ち上げ、充実した専門教育を施すことで学生の研究心の醸成に努めてきております。また、平成26年度には過去6年間に亘り試験的に取り組んできた客観的臨床応用試験（オスキー）を正式にカリキュラムに組み込み、4年生の臨床実習に向けた実践力向上を図ることと致しました。お陰様で平成25年度卒業生は全員が国家試験に合格し、医療人としてスタートしたところであります。保護者に皆様には、当学科の新たな取り組みへのご理解と共に、ご支援・ご鞭撻のほど、何卒、よろしくお願い申し上げます。

大学行事

■保護者懇談会

平成25年11月16日（土）、保健医療学部2～4年生の保護者を対象に保護者懇談会を開催しました。当日は道内外から52名の皆様にご参加いただき、乾学部長による挨拶の後、大日向教務委員長による教育課程や進級・卒業、就職に関する説明の他、小塚副学部長による「保健医療職の役割と今後の発展」と題した講演を行いました。講演後は、保健医療職の将来性について多くの質問が出され、全体プログラム終了後は、17名の希望者を対象に学生担当教員による個別面談を行いました。参加いただいた皆様からは、「教育内容についてよく理解できた」「保護者懇談会はぜひ続けてほしい」といったご意見をいただきました。今年度も秋に保護者懇談会を開催する予定です。



■医療接遇特別講演会

平成26年3月17日（月）卒業を控えた4年生を対象に「医療接遇特別講演会」を開催しました。この講演会は、卒業を間近に控えた4年生を中心に、医療現場で活かせる接遇およびコミュニケーションを学ぶことを目的として開催。今年度で2回目の開催となります。講師として元札幌プリンスホテル副支配人で、現在、医療法人東札幌病院でフロアマネージャーとして接遇教育を担当されている二神 清氏をお迎えしました。講演では、ホテルマンとしての40年で培われた接遇の基本をはじめ、医療現場での実体験に基づき、「医療接遇」の重要性をお話いただいた後、様々な場面における患者さまやご家族とのコミュニケーション、チーム医療を支えるための考え方や心構え、話し方や振る舞い方、などについてご講演いただきました。



■国家試験結果（平成26年2月実施）

平成25年度卒業生の国家試験の結果は次のとおりです。

- 第103回看護師国家試験 47名が受験し全員が合格（合格率100%）
※11年連続合格率100%達成!
- 第100回保健師国家試験 47名が受験し全員が合格（合格率100%）
- 第49回理学療法士国家試験 20名が受験し19名全員が合格（合格率95%）
- 第49回作業療法士国家試験 22名が受験し全員が合格（合格率100%）
- 第97回助産師国家試験（助産学専攻科） 20名が受験し全員が合格（合格率100%）

各学科における学生生活



「卒業直前！看護技術セミナー」開催

平成26年3月11日（火）に卒業直前の看護学科4年生（希望者）を対象に、「卒業直前！看護技術セミナー」が開催されました。当日は36名の学生に対し、看護学科の教員と札幌医科大学附属病院の看護師と一緒にセミナーを担当しました。セミナー終了後の学生のアンケートでは「看護技術の向上を実感した」という回答が9割以上ありました。新卒者が臨床現場にスムーズに適応できるような取り組みをしています。

1年生理学療法 臨床実習1

平成25年9月20日～27日の間に臨床実習1が実施されました。入学してから初めての臨床実習ということで非常に緊張感のある様子が伺われました。臨床現場において理学療法の治療場面や患者さんの生活場面に接することで、障害の実像に対する理解を深め、更に普段の座学では経験できない治療補助を実際に体験してきました。その後の報告会では、「実際の治療場面を見学してより一層理学療法に興味が沸いた」、「自分の知識不足を痛感して今後の学習意欲に繋がった」など、前向きな意見が多くみられました。



1年生作業療法 臨床実習1

1年生にとって初めての医療施設での実習が平成26年1月20～24日の5日間行われました。1人の学生が経験できるのは身体障害・精神障害・高齢者・発達障害の各領域のうち1カ所に限られるため、経験できなかった領域については実習後に実習経験の共有化と一般化を図る目的で学内でのグループワークによる実習後セミナーを実施しました。セミナーでは「臨床場面における作業療法と作業療法士の果たす役割」「作業療法士の勤務する施設の機能の概要」について各領域の相違点をまとめ、その後、作業療法学科の全教員も参加しての発表会をおこないました。3日間のグループワークでは学生間で熱心な討議が展開され、1年間の学内での学びで得た知識が経験をとおして実践的に感じられたようです。





保健医療学部では卒業時に成績優秀者に対して、看護学科では朝比奈嫩葉賞、理学療法・作業療法学科では理学療法学賞・作業療法学賞を、また各学科それぞれで優秀賞を授与して参りました。平成25年度からは進級制限が設けられている2年生までの段階で、学業成績および人物が優秀である学生に対する表彰も行うこととしました。以下の学生が、それぞれの賞を受賞しました。

平成25年度

朝比奈嫩葉賞	山本香澄	優秀賞	小山舞香
理学療法学賞	志水宏太郎	優秀賞	近添早知子
作業療法学賞	諫早悠希	優秀賞	依田あゆみ

2年次優秀学生

最優秀者 安達杏子（看護学科）、皆上めぐみ（理学療法学科）、小野彩夏（作業療法学科）
優秀者 山崎春佳（看護学科）、山埜光太郎（理学療法学科）、三和成実（作業療法学科）

2年次優秀学生から一言

☆最優秀学生

安達杏子（看護学科）

この度、看護学科最優秀学生に選ばれて、驚きとともに嬉しく思います。この2年間、たくさんの方々に支えられて、様々な面で成長することが出来ました。心より感謝申し上げます。今後も感謝の気持ちを忘れず、学業に励んでまいりたいと思います。

皆上めぐみ（理学療法学科）

尊敬する先生方、何より優秀な仲間のおかげで自分は成長できるのだと日々感じています。勉強も一層難しくなり辛い事も多いですが、自分の選んだ道のために周りの人への感謝を忘れず色々なことに挑戦して悔いのない大学生活を送っていききたいと思います。

小野彩菜（作業療法学科）

作業療法学科の最優秀学生に選んでいただきありがとうございます。とても嬉しい限りです。3学年でも授業等で多くのものを吸収し、来年の臨床実習や卒業後に向けて今できることを精一杯行っていききたいと思います。



☆優秀学生

山崎春佳（看護学科）

今回このような賞をいただくことができ大変嬉しく思います。また、私が部活ばかりしていると心配していた両親を、少し安心させられ良かったです。残りの2年間、看護学科のみんなと協力して、また頑張っていこうと思います。

山埜光太郎（理学療法学科）

1年生から真面目に取り組んだ結果が、このような形で表彰されて、とても嬉しく思います。今後の学びを、より大切にしながら、理学療法学科同期の皆と共に学生生活を悔いなく過ごしたいです。

三和成実（作業療法学科）

この度は優秀賞に選んでいただきありがとうございます。地域医療合同セミナーやアルバータ大学への語学研修に参加し、多くのことを学ぶことができました。これからも継続して意欲的に学んでいききたいと思います。

